

# 高可用性データベース・システムを安価に構築

多彩な高可用性ソリューションを広域に配置すれば、事故や災害にも極めて強いデータベース・システムを構築できます。構成を動的に変更でき、ソフトウェアのバージョンアップやハードウェアのメンテナンス時もシステムを継続利用できます。

## 適切なサーバーにリダイレクト

クライアントが接続しているサーバーに問題が生じた場合、他の稼働しているサーバーに接続をリダイレクトします。負荷の少ないサーバーにリダイレクトさせて、負荷分散を行うこともできます。

## 主サーバーが使えなくなったら

### 副サーバー ① ② ③

主サーバーと共に共有ディスク・クラスターを構成します。主サーバーに問題が生じた場合、設定順位の高い副サーバーが主サーバーの役割を担います。クライアントが接続しているサーバーに問題が生じた場合は、クラスター内の別サーバーにリダイレクトされます。負荷分散のために負荷の少ないサーバーにリダイレクトすることも可能で、負荷が重くなった場合には、システムを止めずに新たなサーバーを簡単に追加できます。

## 副サーバー① ② ③も使えなくなったら

### 副サーバー ④

主サーバーと同期データ・レプリケーションを行い、共有ディスク・クラスターに問題が生じた場合は、この副サーバーが主サーバーとなります。

## 念には念を入れて

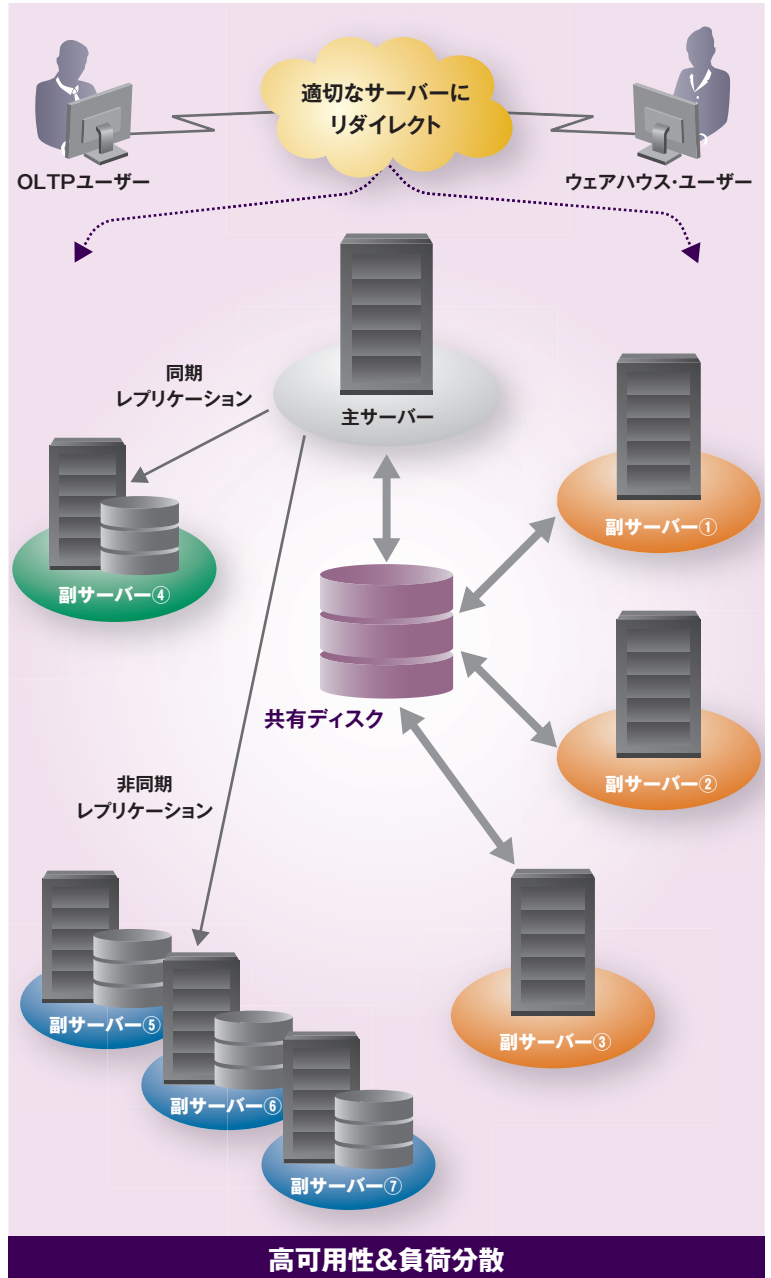
### 副サーバー ⑤ ⑥ ⑦

主サーバーと非同期データ・レプリケーションを行い、副サーバー④が主サーバーになった場合には、一台がその副サーバーとなります。データ・レプリケーションを同期モードに切り替えることもできます。

## レプリケーション

遠隔地などで主サーバーと非同期データ・レプリケーションを行います。主サーバーが変更された場合でも新たな主サーバーに自動接続されます。

詳しくは裏面をお読みください。



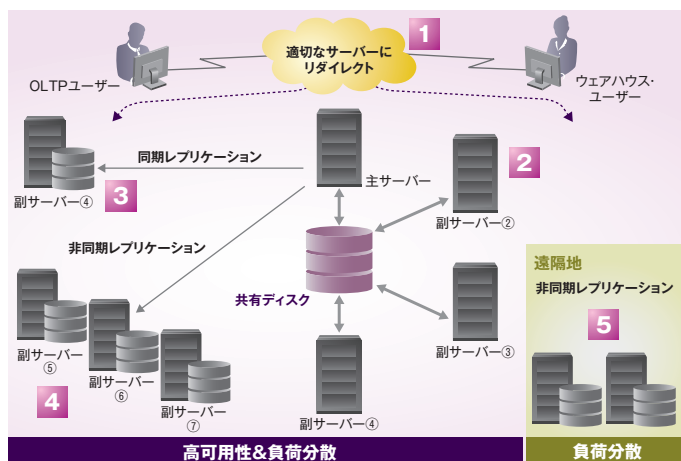
# IBM Informix® Dynamic Server V11.50で実現します!

## 1 リダイレクト

IDS Enterprise Editionでは、接続マネージャーがルール・ベース(サービス・レベル・アグリーメント)でクライアント・アプリケーションの接続をリダイレクトします。各サーバー・タイプや未使用作業容量、サーバー状態などの統計情報を自動収集し、ルールに応じた高可用性や負荷分散を実現します。

## 2 共有ディスク(Shared Disk:以下、SD)副サーバー

SD副サーバーは、主サーバーのインスタンスと同一ディスク・デバイスを共有するミラー・インスタンスです。主サーバーの障害が検出された場合、主サーバーが再接続処理を行わない限り、副サーバーが主サーバーのロールを引き継ぎます。クラスター内にある負荷の少ないサーバーにクライアントをリダイレクトさせることで負荷分散を行うことも可能です。負荷の状態に応じた新たなサーバーの追加や削除は、システムを稼働させたまま極めて簡単に行えます。この構成には各サーバー・ライセンスとContinuous Availability Featureライセンスを要します。



## 3 高可用性データ・レプリケーション(High availability Data Replication:以下、HDR)副サーバー

HDR副サーバーには、主サーバーのデータが(通常は)同期レプリケーションされており、主サーバーを含むSD副サーバー全体に障害が生じた場合、ほとんどロスタイムなしに主サーバーの役割を引き継ぎます。

## 4 リモート・スタンドアロン(Remote Standalone:以下、RS)副サーバー

RS副サーバーは複数台設置でき、非同期レプリケーションであるため、主サーバーとの通信にスループットが出ないような場合にも有効です。主サーバーの障害などでHDR副サーバーがその役割を引き継いだ場合、このRS副サーバーの一台がHDR副サーバーとなります。このとき主サーバーとのレプリケーションを同期モードに変更することも可能です。

## 5 エンタープライズ・レプリケーション(Enterprise Replication:以下、ER)サーバー

ERサーバーには、主サーバーのデータが非同期レプリケーションされており、主に遠隔地での負荷分散などに用いられます。設置台数に制限は無く、レプリケーション対象やその条件を自由に設定することができます。

### その他の強化オプション

#### Storage Optimization Feature

データ圧縮によりディスク使用量を半分以下に削減し、I/Oの負担軽減とバッファ・プールのヒット率向上でパフォーマンスを向上させます。

#### Informix Warehouse Feature

OLTPデータのウェアハウス分析を可能にします。Storage Optimization Featureを含みます。

#### Advanced Access Control Feature for Workgroup

ラベル・ベースのアクセス制御を提供します。IDS Enterprise Editionには標準装備されています。

Informix Dynamic Serverには、Enterprise、Workgroup、Express、Developer Editionがあります。

	SD副サーバー	HDR副サーバー	RS副サーバー	ERサーバー	Storage Optimization	Informix Warehouse	Advanced Access Control
<b>Enterprise</b>	○*1	○	○	○	○*5	○*6	○
<b>Workgroup</b>	×	○*3	○*3	○*4	○*5	○*6	○*7
<b>Express</b>	×	×	×	×	×	×	×
<b>Developer</b>	○*2	○*2	○*2	○*2	○*2	×	○*2

\*1 Continuous Availability Feature(有償)が必要です。 \*2 使用は開発およびテストなどに限られます。(無償)  
 \*3 副サーバーの総数は二つまで、Workgroup Editionの副サーバーは書き込み不可です。 \*4 単一の親ノードのみを認識するリーフ・サーバーとして使用できます。  
 \*5 Storage Optimization Feature(有償)が必要です。 \*6 Informix Warehouse Feature(有償)が必要です。 \*7 Advanced Access Control Feature(有償)が必要です。



## 日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Corporation 2010  
All Rights Reserved

04-10 Printed in Japan

製品の詳細は以下をご参照ください。  
<http://www.ibm.com/software/jp/data/informix/>

詳細情報のお問い合わせは、弊社営業担当部員、  
もしくは e-Mail: [INFORMIX@jp.ibm.com](mailto:INFORMIX@jp.ibm.com) まで。

このカタログに掲載されているサービスは2010年2月のもので事前の予告なしに変更することがあります。

IBM、IBMロゴ、ibm.com、Infomixは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。

現時点でのIBMの商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。

掲載されている製品・サービスはIBMがビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。